

第87回日本皮膚科学会 東京支部学術大会を終えて

佐藤 貴浩

防衛医科大学校皮膚科教授

はじめに

2023年11月18・19日にかけて日本皮膚科学会東京支部学術大会を京王プラザホテルで開催させていただきました。学会内容はプログラムをご覧ください。ただ今本稿では準備、運営の事情などをお話しさせていただきます。

テーマとポスター

大会のテーマは「皮膚の匠として～To be a dermatology artisan～」でした。しかしポスターには広い野原に妙な飛行機が写っていたと思います。実は防衛医科大学校(以下、防衛医大)のある所沢はわが国の航空発祥の地として知られています。明治44(1911)年に日本初の航空機専用飛行場が建設され、フランス製アンリファルマン機が1分20秒の飛行をした記録が残されています。飛行場跡地の一部が所沢航空記念公園になって現在に至ります。

ポスターに載っているのは公園に展示されている航空機の1つでC-46中型輸送機です。自衛隊入間基地で使用されていたものだそうです。実はポスターの中にはアンリファルマン機も飛んでいます。そしてその航空記念公園そばの広大な敷地に防衛医大は建てられています。いずれにせよ今回の学会テーマやポスターは、昨今の流行からしますといくぶん時代を逆行した懐かしい雰囲気を出していたかと思います。

開催形式の悩み

完全Web開催という選択肢は考えませんでした。思いきって完全現地参加とするのか、ハイブリッド開催とするのかは悩みどころでした。コロナ感染を完全に無視してよいのか配慮すべきなのか。ハイブリッドのほうが参加者数を多く見込めますが予算の問題は重くのしかかります。悩んだ末の結論は指定演題のみハイブリッドでした。やはりこの数年で皆様リモート参加に慣れてしまっていますし、ハイブリッドは利便性も高いです。しかし来年度以降の学会ではむずかしい選択を迫られるかもしれません。

会長招宴会か会員懇親会か

これも経費上、悩みどころでした。ハイブリッド開催に加えてこの両宴会をフルに行うことは予算上のリスクを伴います。ほかの学会では会長招宴会を優先するところもありましたが、迷った末に



図1 会員懇親会の様子



図2 配布されたコンgresバッグ

会員懇親会をフルに行い、会長招宴会のほうは諦めました。いまさら会員懇親会をやってもここ数年の習慣から人が集まらず閑散としてしまうのでは？と心配しましたが、結果的には多くの方々が立ち寄ってくださりありがたいかぎりでした。ただ、恒例になっていた余興は自粛しました(図1)。

異例のコンgresバッグ？

コンgresバッグは好みが分かりますし、会場内で使用する方もいれば、むしろ普段使いしたい方もいるでしょう。そもそもコンgresバッグってなんのために配布するの？必要なの？という疑問もありましたが、とりあえずはプライベートでも使えるように学会関連のロゴはいっさい入れないことにしました。そしてたどりついた案は既製の無印良品トートバッグとベトナム刺繍入り(3種類)のシューバッグでした(図2)。みなさんの評価はわかりませんが、学会との関連性など何もなく、使い勝手を重視する形にしました。

ご当地物

展示・ドリンクコーナーでお菓子を手に入れることができた方はどれくらいいたのでしょうか。埼玉のご当地ものを堪能いただこうと川越の老舗・亀屋の「亀の最中」に「亀どら」と、くらづくり本舗の「べにあかくん」に「ぼくぼく」を常時提供していました(図3)。十分な数をご用意したつもりだったのですが、見込みが甘かったのかそれともわりと好



図3 川越のお菓子とCOEDOビール

評だったのか、積まれたお菓子はすぐになくなっていました。会長の私も手に入れられなかったほどです。現地参加者数をまったく予想できず、実際の2～3倍の量を用意すべきだったと反省しています。ご当地ものといえばカクテルパーティーでは川越の「COEDOビール」を提供し(図3)、また会員懇親会ではやはり地酒の「鏡山(純米大吟醸)」と「鳳翔(純米大吟醸)」をご用意しました。

おわりに

学会の本質、すなわち学術的なこととはまったく関係ないお話をしました。プログラムは好き勝手に組みましたので、そのよし悪しは皆様の評価にお任せします。もちろん学問的評価は会長としては気になるところですが、内容よりもむしろどれだけ心地よくご参加いただけるかが重要でした。そんな中、数々のお役目をお引き受けくださった先生方には、ただただ感謝しかありません。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。